令和８年度美国会湖岸清掃活動
（新海浜水泳場）

2026.09.25



◎川口支部長の挨拶



令和８年９月 25 日　金曜日
晴天に恵まれて（午前９時 30 分～11 時 30 分）　彦根市新海浜水泳場にて、レイカディア大学同窓会湖東支部会員 39 名が参加して、美国会湖岸清掃活動を実施しました。



【朝礼の様子】

【清掃作業開始】





















【きれいな湖岸になりました】

【参加者の感想】

まず草が 2～30 センチ程伸びた草わらの中へ車を突っ込んでの駐車。女性の運転では少し怖かったです。

9 月も終わりというのに汗ばむ日照りだったが浜風が気持ちよくて作業が進みました。ニュースで知られている新海浜の波打ち際の浸食が目立ちました。かつては小学生の頃水泳大会が開かれて賑わった砂浜も波がひっそりとサラサラ打ち寄せていた。

それはさておき、私達レイカ OB 数十人はそよ風を浴びながら清掃に励みました。 ペットボトル、缶、ビニール、ザル、手袋など生活用品が多く、ゴミの分別が徹底されていても終わらない琵琶湖のゴミ。それだからこの活動が続くことに意義があるのだとつくづく思いました。



ほっと一息の時　貝殻も拾いました。

(写真＝澤邊雅子さんから提供)

『チョっと Break』

砂浜や海岸の砂地に生育するシソ科ハマゴウ(浜栲)



(写真＝山岡幸子さんから提供)

琵琶湖の湖岸で見かけたハマゴウは、国や自治体が指定する「天然記念物」そのものではありませんが、非常に価値が高く、大切に保護されている植物です。

具体的には以下のような位置づけになっています。
国の指定状況：国の天然記念物としては指定されていません。
学術的な評価：研究者からは「海岸から遠く離れた琵琶湖になぜ海浜植物があるのか」という進化の歴史において天然記念物級に価値があるものとして注目されています。

滋賀県の保護：滋賀県では「滋賀県絶滅危惧増大種」に指定されており、彦根市新海浜などの特定の地域では「新海浜ハマゴウ・ハマエンドウ群落生育地保護区」が設けられるなど、条例に基づいて手厚い保護や保全活動が行われています。
ハマゴウは、本来海の砂地に生える植物（海浜植物）ですが、太古の琵琶湖の環境や気候の歴史を今に伝える貴重な生き残り（遺存植物）とされています。青紫色の涼しげな花を咲かせ、葉や茎には爽やかな良い香りがあるのが特徴です。

特徴生育環境＝ 海岸の砂浜や砂れんの地に茎を這わせて広がる、常緑または落葉の小低木（海浜植物）です。
葉＝ 丸みのある対生する葉（単葉）が特徴です。
花＝ 7～9 月頃にかけて、枝先に淡い青紫色の特徴的な唇形の花を穂状につけます。
香り＝ 全体にユーカリやミントのような爽やかな芳香があります

もしも、湖岸で見かけられた際は、琵琶湖の長い歴史を感じさせる貴重な自然の姿ですので、そっと眺めて楽しんでみてくださいね。







◎集まりました、集まりました。
燃えるゴミ・燃えないゴミ





◎軽トラックに一杯!!!



【参加者の感想】

　初めての参加でしたが、顔見知りの方もおられ、気楽に仲間いりさせてもらいました。怪我もせずに、無事に終了でき、良かったです。



【清掃作業終了】

◎流木は、県土木事務所が引き取り





【参加者の感想】

昨年はわりと少ない参加者だったのに、今年は約 40 名の参加で賑やかな清掃作業でした。 昔の新海浜の話をする人達もあり、解説付きの楽しいひと時でした。 集まったゴミや雑木を見て、今年もお手伝いできたと嬉しく思った一日でした。

【清掃のまとめ】

・実施日　令和８年９月 25 日（晴れ）
・午前９時 30 分～午前 11 時 30 分
・実施場所　新海浜湖岸
・参加者　　３９名
・燃やすゴミ　３７個
・燃えないゴミ　２２個
・流木トラック１台（県湖東土木事務所引取）







★琵琶湖を未来へ

かけがえのない琵琶湖。私たちが受け継いだこの美しい湖を次の世代にも。
いつまでも変わらない姿で残していきたいと、ずつーと見ていました。